

NUA PRESS

名古屋芸術大学
美術・デザイン学部
同窓会情報誌

NAGOYA
UNIVERSITY
OF ARTS

発行日 2004年9月27日
発行人 青木高弘
編集 同窓会編集部
発行所 T481-8535
愛知県西春日井郡西春町
TEL (0568)24-0325

2004 no.11



'75 野球
校庭にて

特集 Back to School !!

——上の野球をしている写真。ここはいったいどこなのでしょうか?ここは野球のグラウンドではありません。実は1975年頃の名古屋芸術大学美術学部です。これは現在のU(デザイン)棟と体育館のエリアが映っています。この当時はまだ鉄筋コンクリートの建物はA棟しか無く、そこにいろいろな学科が、みな入りおり、食堂は現在のK(絵画)棟の位置にプレハブを建て、そこで食事していたのです。今では棟の名称もついに『Z』まで届き、26棟が学内に建っていることになります。

今回の特集は“Back to School !!”。これは海外の文具店や本屋で良く使われるキャッチコピーです。9月からの新学期に備え、夏休み気分の心と身体を学校へ、学業へと切り替えようという呼びかけです。ここでは、皆さんに学生時代を思い出していただくためのコピーです。特に1期から10期にあたる同窓生の皆さん時代を中心に、当時を振りかえっていきます。誕生したての名古屋芸術大学をご覧いただきましょう。

1970年

音楽学部と共に美術学部がスタート。美術学部の第1期生は、61名でした。当時の西春キャンパスはA棟とプレハブの校舎のみで授業が行われていました。現在は、学部が美術学部とデザイン学部になり、校舎はA棟からX棟までが建ち並んでいます。多くの卒業生を社会に送り出し、31期生までに達しています。

開学当時の名芸は、校舎の整備が遅れ、学生達からは施設や教育に対して不備があると不満の声が上げられていました。そしてそれらはボイコットや学内紛争までに発展します。学内紛争は、マスコミにも取り上げられましたが、その間には大学側と学生的歩み寄りもあり、同時に大学の基盤も確立されていきました。

まだK(絵画)棟は無かった'80年頃。
手前の空き地に、U(デザイン)棟、体育館が建つことになる。



新しい絵画棟(現在は主に日本画と版画選択コースが使用)から撮影。'85年頃。



現在…

風景

正門の横にある新しい門。



石切場だった場所に管理棟が建つ。



A棟とB棟(旧洋画棟)間に繋ぐ渡り廊下。B棟は現在食堂、商店と、アート&デザインセンター(ギャラリー・図書館)として生まれ変わっている。



芝生の奥に建っているのは、Z(絵画・洋画)棟とX(デザイン)棟。

当時のエピソード あれこれ

牛骨作りの授業がありました。東松栢島の屠殺場からタダで牛の頭を貰い、それを庄内川の河原に埋めて待つこと3ヶ月。掘り起こしてみるとまだ完全な白骨化とはいかず、目玉がボロッと飛び出たりしてかなりアッチャンブリケな牛の頭でしたが、それを川できれいに洗って完成させました。その牛骨は、現在も日本画で使われています。

卒展で、どある卒業生が『ウ●●』(編集部規制による伏せ字)の缶詰を展示して、愛知県美の学芸員から大クレームを受けた。

第1、2期生は生徒が少なく、学生は学校に対して不满を持っていたので、辞める人も多かった。学生が辞めるとよく石膏像も行方不明に?!

学食のメニューははカレー・ハヤシライス・うどんのみ!

モデルさんも個性的な人が多くて、約束通りに来ないモデルさんを家まで呼びに行かなければならない状況や、「強面」な人に脅かされるようなこともあったとか。

オバケが出た!

当初の洋画の授業は、アカデミックな指導をしていて実技には偏りがあった。材料技法や現代美術、版画の設備が必要な状態だった。長い年月をかけて、今日の名芸になるまでには色々な先生を招いたりしながら、内容も充実していった。

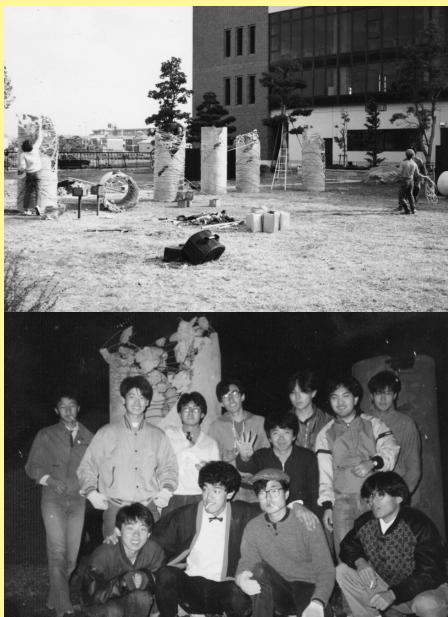
第一期生が4年生に在学している頃でした。当時の名芸は、一言で云うと大学らしくない大学だった。校舎は、A棟と工事中のB棟、プレハブであとはすべて運動場。周りは、青いフェンスで囲まれていました。最初の仕事は、草むしりというくらい運動場は広かった。

モデル事務所というものがなく、授業にモデルを入れるために駅でモデルをしてくれる人の募ったりしました。しかし裸婦になってくれるモデルさんは、なかなか見つからなかつた。



Back to School !!

●芸祭



田中 涙～舞蹈パフォーマンス～

(1985.11.04, 17時開演) 上の写真は、現在U棟がある場所での、準備風景。下は参加メンバー。[I氏提供]

模擬店『ぽんが亭』建設中!

伝統あるぽんが亭の、初期の姿。この頃は校舎より模擬店の方が多い、なんて話も。[S氏提供]

●体育研修



夏の体育研修旅行

夏休みを利用した、研修旅行。旅行気分で授業の単位が取得できると、当時から人気があった。[I氏提供]

学校生活

学校生活 部活動 スキー部 5期 角間達郎



大合宿・鹿島槍スキー場にて。加藤朝美さんを囲んで。



芸祭の時:スキー部の店「白い小舎(こや)」。みんな長髪、時代ですね。

芸術大学にあって、古くから活動を続いている部活がある。スキー部である。正式名称、"GONCE SKI CLUB"。その発足時のメンバーのひとりである角間達郎氏(5期卒)に話を聞いた。

記者 伝統あるスキー部ですが、発足時のお話を聞かせてください。

角間 30年も前の話になりますね。わずか10名足らずのメンバーで発足しました。最初の合宿で、道具も揃っていないまま来てしまった部員がいたり、ユニフォームすら揃っていませんでした。でも、皆で励ましあって練習し、上達しました。もちろん掛け声は「ガンバ！」です。

記者 体育会系の部活でよく聞く掛け声ですね。

角間・今でも現役部員の声がゲレンデにこだましてますね。

記者 まじめな体育会系運動部だったんですね。

角間 いやいや、ことスキーの滑りには真剣でしたが、それ以外は宴会芸の練習など、バカなことにもエネルギーを費やしていましたよ。(笑)

記者 顧問の先生はどなたなんですか。

角間 大橋廣先生です。先生から学校主催のス

キーバスのコーチを依頼されて、コーチ選考合宿を行ったこともあります。

記者 スキーバスといえば、スキー部の方が活躍されていましたね。角間さんは今でもスキーは続けていらっしゃるんですか。

角間 仕事の合間にねって家族で行っています。また年に一度、現役部員主催でOB杯を行ってくれているので、それにもなるべく参加するようになっています。

記者 OBと現役とが、雪の上で接点があるということはすばらしいことです。部活として長く続く秘訣なんでしょうか。

角間 正直、30年以上も続くとは思ってもみませんでした。スキーを取り巻く環境も、発足当時からすればすごく変わっていますが、いつの代も「皆でうまくやろう」とがんばってきたんでしょうね。

記者 ありがとうございました。

この伝統あるスキー部で代々受け継がれてきたものは、個人のスキーではなく仲間同士の研鑽であったことに気がついた。今後の更なる飛躍発展を祈る。

[K]

ラッピングバス

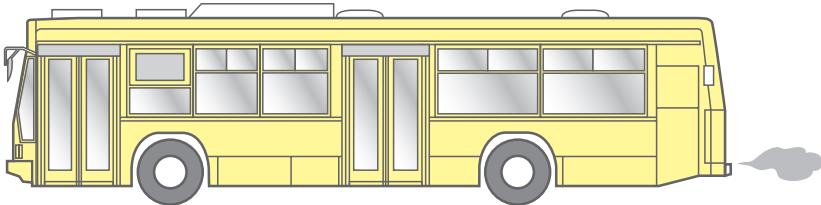
走って ます

名古屋芸大のラッピングバス、見ていただけましたか？

今、名古屋市内に我が名古屋芸術大学のラッピングバスが走っています。正確には「学校法人名古屋自由学院設立50周年記念バス」ですが、同窓会の後援活動の一環として名古屋芸大のPRにもなればと企画してきました。バスのデザインは昨年の公募により選ばれた三嶋大也さん(みしまだいや・デザイン科23期卒業)の作品です。

名古屋栄のオアシス21を出発し、大津通りを北へと進みます。上小田井、平田住宅へと向かう路線(往復)と、途中で如意車庫へと向かう路線(往復)との2路線を走っています。運行期間は平成15年10月下旬から平成17年4月下旬までです。

運行期間も残すところあと半年。名古屋市内にお住まいの方、また遊びやお仕事でいらっしゃった際には、是非この赤い素敵なバスを探してみてください。学外からも「さすが芸術大学。とてもセンスあるデザインだ。」と大好評です。[H]



車体には、人間の顔がラインで描かれている。



後部。大学のC.I.が大きく記されている。
赤い名芸カラーと白地のコントラストが、人目を引く。

PICK UP!

安部 悟さん ボクシングジムOPEN



皆さんの記憶にまだ新しい、安部悟さんの近況をお伝えします。

ボクサーとして世界に挑戦した安部さんですが、念願のボクシングジム『ABS CULB』を、今年6月18日にオープンしたと聞きお話しを伺いました。'99年12月に世界王座に挑戦し、'04年1月に惜しまれながらも引退。その後は父親が経営する建築会社の跡継ぎとして働いていました。やはりボクシングにかける思いは募るばかり。そして今年、迷いをたちきり、まっさらな海に漕ぎ出したのです。

春日井市役所の南側、徒歩1分、小さなオフィス

ビルの3階にある約40坪のフロア。そこには有酸素運動用の器具もおかげ、さながらフィットネスジムのような雰囲気であります。プロの育成

ばかりが目的ではなく、ボクシングをダイエッタや体力づくりのために役立ててもらうことも、このジムの目的なのです。「ボクシングジムは敷居の高さを感じると思いますが、もっと幅広く、老若男女問わず気軽にボクシングに親しんでほしい。」と、安部さんは思いを語ってくれました。

安部さん自身、「大学時代から練習につぐ練習の地道な努力によりボクシングも続けることができ、そしてたくさんの人と出会うことができました。これが僕の財産です。」と語っているように、現在に至るまでには多くの人の協力がなければ、ジム開設も実現しなかったことでしょう。感謝を忘れず、地道に一歩ずつ進んでいくその姿勢は、指導者になった今でも少しも変わりませんでした。この先も充分期待できる、そんな手応えを感じる取材でした。[S]



ABS CLUB BOXING PRODUCE by SATORU ABE

〒486-0844 春日井市鳥居松町4-165 春日井中央ビル3F

TEL 0568-87-1212

お気軽にお問い合わせください。

田中 紀子 デザイン科 22期卒



左が田中紀子、中央:船木美佳、右:小島 巳和

n-Mark企画の『Café Line』プロジェクトの名古屋の『カノーヴァン』でカフェを開催するという、ロンドン在住の友人・のんちゃんこと田中紀子。学生時代からの友人だった彼女は、私にとって憧れのロンドンに留学し、そしてそこで作品を創り、今では彼女自身が尊敬と憧れの対象になっている。留学した翌々年に、ロンドン市内にある彼女のフラットに遊びに行った。2人で計画を立てヨーロッパ3都市を巡るアートツアに出かけた。現地で宿泊場所を探し、ガイド無しで美味しいそうな店を見つけ、街を散策した。そんな中でも

彼女は、中国人(と思われる)に点心の調理具合に不満を言い、複雑なヨーロッパ内の鉄道チケットを駅員と相談し買った。すごい。ほんの数年で人はこれほど成長できるものなんだ。感心した、いや感激だ。逆にすごいと感じるたび、私は落ち込んだ。自分自身のあらゆるできなさ加減に、辟易した。英語にしろ、そのパワーにしろ、度胸とか、いろいろに。実際、彼女は輝いてみえた。充実した表情だった。そして再会。ロンドンでのアート・オーガニゼーション『courier』(本人と小島巳和で運営)としての田中紀子と、東京のアーティスト・ふなきみかとでのコラボレーションをいう形ではあるが、彼女のコンセプトや嗜好は貫かれていた。この参加型作品のタイトルは“Happy Hour”。コーヒーやカクテルを楽しむ前に、幸せな話、美しい話をする。話し終わると、お好みの飲み物をお作りします、という感じだ。まずこの幸せな話、というのに最初戸惑った。簡単に幸せな想い出というものが、出てこなかったからだ。でも白いレースの蚊帳、、、テントの中でビデオカメラを向けられ、インタビュアから質問を投げかけ



られると、想い出をスラスラと話すことが出来た。まさしく白いペールに包まれた記憶を、引き出すことができた、そんな気がした。幸せとはなにか。少なくとも私の中で、幸せとは過去の記憶なのだろう。そして、彼女との楽しい想い出も色褪せること無かった。また逢える日を、彼女に期待して待ちたい。[H]

矢頭 裕二 洋画科 25期卒



彼は中学校、高校では陸上部のハンマー投げをしていました。

名古屋芸術大学に進学、空手部に入部し初めて空手を学ぶことになります。

在学中にはB棟内の池近くにサンドバックをさげて、練習していたこともあります。大学で空手の練習をしながらも制作は続けていました。運動好きが伝わるような卒業制作を出品しています、自転車ロードレースの一場面をモチーフにした躍動的で力強い作品でした。

卒業後は本格的に空手を学ぶために円心

会館・愛知支部に入門し、その翌年から渡米することになります。その後は略歴にあるように空手大会にて優勝、その翌年は準優勝と好成績をおさめて、3年間の国際総本部内弟子生活を満了(史上4人目)。

帰国後の現在は滋賀県・京都南にて円心会館滋賀支部・支部長として、実戦から学んだ的確且つ丁寧な指導で老若男女を問わず多くの好評を受けているようです。[K]



略歴

- 1975年 愛知県生
- 1994年 名古屋芸術大学、空手部入部
- 1998年 國際空手道、円心会館に入門
- 1999年 渡米 円心会館・デンバー國際総本部内弟子となる
- 2001年 世界大会「ワールドサバキチャレンジ」にて優勝
- 2002年 世界大会「ワールドサバキチャレンジ」にて準優勝
- 帰国
- 2003年 円心会館滋賀支部、支部長に着任

随時生徒を募集しています。興味がある方はお問い合わせ下さい。

円心会館 滋賀支部 矢頭 裕二

電話 090-9907-6799 Eメール yuji_yato@c.vodafone.ne.jp

早川 貢祐 デザイン科(インダストリアルコース) 23期卒

TV、ビデオ、ラジオ、雑誌、新聞、インターネットといった様々なメディアが大きな影響力を持つようになった。その中でも、TVやビデオの「映像」は、我々の脳裏に深くイメージを焼きつけることができる。その映像を作る分野で活躍の場を広げる名芸卒業生早川貢祐氏に、これまでの経緯や人生観などをインタビューした。

記者／卒業後から今に至る経緯をお聞かせ下さい。

早川／大学在学中から就職希望ではありませんでした。96年3月卒業後は、音楽(ロック)が好きだったので、それで食べていきたいという漠然とした希望しかなく、気づけば毎日プラプラしてたんです。

そして97年の春、父親が大病にかかったのを機に浪人生活にピリオドをうちました。といつてもコンピューターの使えない私は、なかなか定職につけませんでしたね。その年の夏、やはりデザイン、3DCG映像といった自分のやりたい分野を勉強しに上京を決意しました。

「よし、東京や！」と肉体労働に精を出し、お金を貯めました。上京寸前に父は他界しました。二年間映像づくりを学び、卒業後は同学校の非常勤講師をしながら、作品作りに励んでいました。2000年秋、友人と一緒に映像チー

ム壱百式をスタートしてからの2年間は、TV、音楽関係のビデオクリップ、番組のオープニングや、CMなどの仕事をしました。記者／映像作りともなると、生活も不規則なのでは？

早川／食うや食わず、不眠不休でしたが、同年代の人たちと互いに影響しあいながら映像をつくることはとても楽しいんです。それに良い仕事をすれば、必ず次の仕事に跳ね返ってくると思います。その後はフリーのディレクターといったところでですね。

現在は、村上隆氏のカイカイキキアニメーションスタジオというところで映像を作っています。村上隆の世界を映像にすること、これがまた難しい。

記者／難題を乗り越えてどのような仕事をされたんですか。

早川／ビデオクリップでは、ゆず、プリスクールなんかはわかりますか。たけしの誰でもピカソのオープニングもやってます。

記者／フリーで仕事を続けることは決して楽な事ではないと思うんですが、早川さんの仕事に対するモットーのようなものがあれば聞かせて下さい。

早川／好きな事をやっているので、仕事だとは思っていません。今やっている事は遊びの延長だと思っています。



ただ、真剣に遊ぶ事は心掛けるようにしています。

記者／将来の目標や夢はなんですか？

早川／好きな人と、好きな時に、好きな事ができるようになりたいです。

映像とかCGにはぜんぜんこだわっていません。なんでもいいです。

記者／ありがとうございました。

早川氏の映像づくりにおける感性、才能について興味をいだいていたが、インタビュー後には、その明朗快活で友好的な人柄こそが、彼の秀でた能力だと言う事に気がついた。仕事と遊びの垣根を持たない男の、今後の活躍が楽しみである。

坂崎 雅子 日本画 16期卒



店内の様子

「早いもので、来年にはオープン10周年を迎える」と池下の西洋アンティークショップ『Angel Collection』のオーナーの坂崎雅子さん。灰かにバラが香る明るく清潔感に満ちあふれた店内には、ご主人と一緒に直接フランスやイギリスから買い付けたアンティークの数々が並び、うつとりするような空間が広っていました。大学卒業後は会社勤めをしながら日本画の制作活動を続けていた坂崎さんが、アンティークの世界に入ったきっかけは何だろうと興味津々にお尋ねしたと

ころ、「自分の人生を自分で決めたかったから」と迷いのないお答え。そして「手仕事の品々やその歴史的背景、文化に興味があります」

見渡すと、全ての品々にとてつもなく手間が掛かっている。小さなボタンひとつとっても芸術品のようで、ため息が出てきました。今後については、「時代をより深く知り、言葉を知り、知識を積み重ねること。日々勉強です。」と語ってくれました。ここには人間の生み出した確かな手ごたえがあります。皆さんも一度訪れて見て下さい。

Angel Collection エンジェルコレクション
名古屋市千種区春岡1-4-8ESSE池下406号

PHON&FAX052-764-1393

<http://www.angelcollection.jp>

E-mail angelco@quartz.ocn.ne.jp

「海外の買付けと他の都市への出店のため、1年の半分は閉まっています。お出かけ前に電話をして下さいね。」

OG/OB 同窓生は今...

作品と人

植田 努 彫刻科 25期卒



植田努さんは、大学院卒業後は日展、日彫展を中心に愛知で活躍中です。1997年の学生時に日彫展に初入選して以降、3年連続で入選。現在は日本彫刻会・会友だそうです。1999年には、日本画24期卒の旧姓原野多香子さんと結婚し、自宅近くにアトリエをかまえて制作しています。

本人は「仕事のあい間に、制作しなきゃいけないから大変ですよ！」。みなさんも社会人になり、学生の頃の自分に戻れたらと、あの無尽蔵にあった制作時間が羨ましくも思えてくるのではないかでしょうか。植田さん自信忙しい中で、時間を作ることから制作は始まっているのですね。

彫刻科5期 吉崎大樹発 開催 『2005年度ミニ同窓会』

2003年6月1日・2日、25年ぶりにやった倉敷(於アイビースクエア)でのミニミニ同窓会に続き2005年度ミニ同窓会を開催いたします。

予定

日時: 6月5日[日]・6日[月]

場所: 「案1) 犬山・小牧辺り」 又は
「案2) 南知多・内海辺り」

※別物のように大学らしくなった名芸見学も含む。
で考えております。

●お問い合わせは

〒705-0003 岡山県備前市大内679-13
TEL 0869-66-8569 吉崎大樹まで

☆同窓会が後援を行った展示会報告【変更注意!!】

2003年8月から2004年6月まで、同窓会が後援を行った展覧会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をご覧の上、ご応募下さい。

- 三葉展(27期卒 山下清文 他)
2003年8月14日～19日:ギャラリー美術サロン遊
- あさのゆき展(20期卒 浅野友紀)
2003年10月20日～26日:トキ・アートスペース
- 横田幸紀展(25期卒 横田幸紀)
2003年11月21日～30日:ギャラリーAPA
- On The Paper展(28期卒 岡川卓詩 他)
2003年12月5日～28日:+ギャラリー
- 村上典子展(11期卒 村上典子)
2004年1月9日～15日:アート&デザインセンター+ギャラリーBE
- オクラ時間展(30期卒 宮村こずえ 他)
2004年1月20日～30日:ギャルリーデコ
- 98JP展(29期卒 加藤泰代 他)
2004年2月24日～29日:愛知県美術館アートスペース
- Exhibition SNOW GARDEN VOL.1(24期卒 森川朱美 他)
2004年3月2日～7日:愛知県美術館アートスペースX
- 藤原史江個展(25期卒 藤原史江)
2004年4月2日～11日:ギャラリーAPA
- 富永奇昂展(14期卒 富永佳秀)
2004年5月21日～6月20日:+ギャラリー
- 飛蝶会VSマルシェ展(28期卒 水野加奈子 他)

上記ほか。(計41企画)

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1.資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2.後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

3.手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4.条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5.問い合わせ

名古屋芸術大学美術・デザイン学部事務局

TEL0568-24-0325

再度確認を! お願いします!

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	○年○月○日		○年○月○日
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	第○期○○○科卒業 ○○○○○印	名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	第○期○○○科卒業 ○○○○○印
下記の作品展について後援をお願いします。			
1) 名 称 ○○○○展	1) 名 称 ○○○○展	2) 場 所 ○○○ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場 所 ○○○ギャラリー (住所・電話番号)
2) 場 所 ○○○ギャラリー (住所・電話番号)	3) 会 期 ○年○月○日～○年○月○日迄	3) 会 期 ○年○月○日～○年○月○日迄	4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所 ※氏 名(第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入
3) 会 期 ○年○月○日～○年○月○日迄	4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所 ※氏 名(第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入	5) 入場者数 ○○名	5) 入場者数 ○○名
4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所 ※氏 名(第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入	6) 写 真 写真○点添付致します。	6) 写 真 写真○点添付致します。	以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/○○銀行・○○支店・○○座・No.○○ 住所・氏名・電話番号・口座名義(フリガナ)

ゴールデンプライズ2003 受賞者

めざましい活躍をした同窓生を、表彰するゴールデンプライズ。2003年度は同窓生部門を表彰いたしました。

ゴールデンプライズ 2003

金子絵里(日本画,30期卒)
鈴木善晴(洋画,23期卒)

上記2名の方々、
おめでとうございます。

後記

■今年も多くの皆さまのご協力を得て、NUA PRESS no.11を発行することができました。今回は、“バックツスクール”ということで名芸の開学当時を振り返っています。在職中の先生方から写真をお借りしたり、貴重なお話を聞かせていただきました。すべてをお載せすることはできませんでしたが、当時の雰囲気を感じてもらえると思います。これからも読み応えのある紙面づくりを目指しますので、皆さまのご理解、ご協力を宜しくお願いします。■同窓会のホームページ、西春キャンパスB棟1階売店前に設置されている同窓会掲示板へ展覧会の情報、就職情報などをどんどんお送り下さい。皆さまの情報をお待ちしています。■同窓会の作品展に於ける後援規約が若干変更になりました。後援依頼・報告の仕方や規約内容を再度確認の上、申し込み下さい。これからも活動する同窓生を応援します。■第17回同窓会総会・懇親会を11月14日(日)に名駅のノリタケの森にあるレストランキルン(詳細は右記)で開催します。今回は、過去にゴールデンプライズを受賞された方々の作品展をノリタケの森ギャラリーで同時開催いたします。さらに懇親会では、同窓生の交流や豪華景品の当たる楽しいゲームを企画しています。先生方も大勢いらっしゃいますので、この機会に仲間を誘って是非ご参加下さい。今年も会費は無料です。多数の参加をお持ちしております。

お問い合わせ

記事のお問い合わせ、投稿、また住所変更された方など…卒業期、科、氏名、住所、電話番号をご記入の上、下記までご連絡ください。

〒481-8535
愛知県西春日井郡西春町
名古屋芸術大学西春キャンパス
美術学部・デザイン学部同窓会事務局宛
tel. 0568-24-0325
fax. 0568-24-0326

同窓会総会・懇親会のお知らせ

今年の第17回総会・懇親会は、まだできたばかりの施設『ノリタケの森』にて開催する運びとなりました。また今回も、会費を無料にいたしました。ぜひ懐かしいお友達・ご家族お誘い合わせのうえ、お気軽に越し下さい。

場所 ノリタケの森

『レストラン キルン』

交通のご案内

- 名古屋駅より徒歩15分
- 地下鉄「亀島」駅から徒歩5分
- 名古屋市営バス「ノリタケの森」下車
- 駐車場は有料です

日時 平成16年11月14日[日]

受付 14:45~

総会 15:00~

懇親会 16:00~

会費 無料



ノリタケの森 コンチネンタル料理 レストランキルン

名古屋市西区則武新町3丁目1番36号(ノリタケの森内)

電話052-561-7304

役員紹介

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監査	理事	理事(会計)	理事(書記)	理事(会計)	理事(会計)	理事(会計)	理事(会計)	理事長	副会長	副会長	会長	
評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	(事務局長)	(会計)	(書記)	(会計)	(会計)	(会計)	(会計)	(会計)	理事長	副会長	副会長	会長	
3期	3期	3期	3期	3期	29期	28期	28期	27期	27期	25期	23期	22期	19期	20期	20期	20期	20期	12期	22期	20期	19期	4期	
日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	洋画	彫刻	彫刻	洋画	洋画	洋画	日本画	日本画	日本画	日本画	デザイン	
宮崎 靖子	梅村 愛	榎原 孔美子	仲田 真知子	水野 寧奈	青木 雅美	加藤 雄一郎	星野 真由	佐竹 亜希子	稻波 伸行	余語 茂明	小島 美奈	鈴木 利穂	岡本 昌子	藤田 摶子	小竹 陽子	石川 重明	浜辺 由美	山田 万喜夫	大沢 研次	三輪 政弘	田口 貴久	岩井 義尚	中村 恵美子
高木 高弘	荒木 紀江	白井 久義	鈴木 淳子	芳賀 基純	平田 隆宏	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	青木 高弘	

懇親会参加予定の皆さんからのメッセージ



加治幸四郎

9期卒 絵画科洋画

加治準子(旧姓田中)

9期卒 絵画科洋画

現在名古屋芸大で非常勤をしています。皆さん、お待ちしています。

杉浦尚史

5期卒 絵画科洋画

卒業してから大学から遠いのになってしまった洋画の皆さん、クラス会を計画して挫折している皆さん、懇親会を利用して集まりましょう。



大崎正裕

絵画科洋画 教授

私たちが忘却かけた遠い過去の思い出。皆で一同に会し、もう一度涙し、それを温めてみませんか。



大橋 廣

教養部会 教授

是非元気な姿を見せに来てください。懐かしい面々を誘って、昔話に花を咲かせましょう。